NO. 2020・62 号
発行日：2020 年 8 月 24 日

検査のパレット

2020 年 4 月より広島記念病院では新たに排便機能外来が開設されました。そこで今回は排便機能外来で行っている**直腸肛門内圧検査**についてお話します。

直腸肛門内圧検査は主に**便失禁**や**便秘**の原因として肛門周囲のどの筋肉が関与しているかを調べる検査です。この検査では患者様はベッドに横になってもらい、医師が細いセンサーカテーテルを肛門から挿入して直腸内や肛門内の圧を測定します。私たち臨床検査技師は機器の操作等医師の介助を行っています。検査時間は 20 分程度で痛みはありません。また検査前の食事制限や下剤の服用もありません。

●最大静止圧の測定

最大静止圧とは、安静状態で測定した肛門内圧のことで、無意識のうちに肛門を締めている力です。この力に関与しているのが内肛門括約筋（最大静止圧の 85%がこの筋肉の働きを反映します）であり、無意識でも持続的に収縮し一定の圧が保たれています。この力が低下すると気付かないうちに便が漏れて下着が汚れることがあります。

●随意収縮検査（最大随意収縮圧・収縮圧持続時間の測定）

最大随意収縮圧とは、力いっぱい肛門を締めた状態で測定した肛門内圧のことで、恥骨直腸筋や外肛門括約筋の収縮力を反映しています。この力が低下すると便意を感じてもトイレまで我慢できずに便が漏れてしまったり、ガスが漏れたりします。また、この肛門を締める力をどれくらいの時間持続できるかを測定します。

直腸肛門内圧検査にはこの他にも排便機能に関する項目があります。次回は今回紹介しきれなかった項目についてお話します。

質問等ございましたら、お気軽におたずねください。
今後とも検査室をどうぞよろしくお願いします。

国家公務員共済組合連合会　広島記念病院